

# きんもくせい

平成24年 学校教育だより

March **3** 第312号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会

発行・埼玉県富士見市教育委員会

電話・049-251-2711 (内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



育てた稲わらで鍋敷づくり (5年 水田タイム)

写真提供/南畑小学校

## お正月

つるせ台小学校 六年

守山 智哉

一年で

一番めでたく うきうきする

おじいちゃん おばあちゃん

いとこやはとこ

みんなそろって にぎわったり

どんな人から きたんだ 年賀状

神社に行き

おみくじを引いて 今年を占う

大吉がくるかと 勝負する

大吉がきたら

今年はハリウッド

家で

こたつに入りながら

家族みんなで 雪をながめる

家族みんなで 雪をながめる

### 小学校外国語活動を通して

平成二十三年度より、小学校において新学習指導要領が全面実施され、第五・第六学年で年間三十五単位時間の「外国語活動」が必修化されました。そのなかで、「コミュニケーション能力の素地を養う」ため、三つの柱を立て授業を展開しています。

- ①言語・文化を体験的に理解させること
- ②積極的にコミュニケーションを図ることができる場を保障すること
- ③外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること

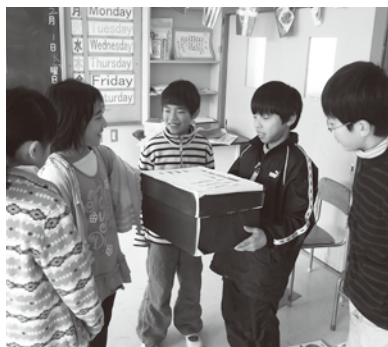
これら三つの柱を軸として授業を行うことで、小学校外国語活動が目指すものが実現できると考えます。

本校では、この柱を踏まえ、児童の知的好奇心に訴える教材・授業の展開の工夫、コミュニケーションをとる際に必要なキーワードの徹底・振り返り・チャンツやアクティビティの充実に重点を置き、授業を行っています。

# 「大切」に

指導者 関沢小学校教諭 森谷 慎平

## 体験から学ぶ



「外国語活動」小学校で英語を学習する」ではなく、言語や文化を通して児童間やAET（外国語指導助手）、担任等とコミュニケーションを図

る活動を多くします。それらの活動を通して、ふれあうことの楽しさや喜びを味わうことで「新たな好奇心」を持たせられると考え、授業を展開しています。

相手を知り、他国を実感しコミュニケーションの面白さに気付かせる。そのためにも場を工夫し、ふれあいの経験を豊かにすることが、児童にとって大切です。

活動の楽しさは学びの原動力、その楽しさを体験によって得ることができるよう工夫を凝らしています。

日本語とは異なる言語を初めて耳にしたとき、まるで呪文のように感じ、何を言っているのかさっぱり……という経験は、誰もがしたことがあるのではないのでしょうか。子どもたちにとっても新たな言語に出会うというハードルは非常に高いと感じています。

しかし、そのハードルに出会ったとき、知らなかったことを知る喜びを感じてほしいと考え、教師側の声かけを重視しています。「聞いたこと

のある言葉があったけど、見つけられた？」最後の言葉に注目して。「などと声をかけることで、子どもたちはキーワードを探そうと注意深く聞き、相手の考えを理解しようとしています。それらを通して、自分の考えを伝えようとするこの大切さ、なかなかうまく伝えられない難しさを実感しながら、進んでふれあおうとする態度を育てています。

よりよく自分の考えを伝えるために、本校では三つのキーワード、

① スマイル！

## 子どもの秋

諏訪小学校 6年

鈴木 佑香

私が、一番楽しかったのは秋です。秋は、修学旅行があったからです。

特に、夜はみんなでUNOをやったりしました。私はUNOで1回負けたけどすごく盛りあがりました。

ほかの部屋の友達が、「しかがいるぞー。」と言った

### 特別な秋の夜

ので外をのぞくと、しかが4ひきいました。しかを見て、野生のしかははじめてなのですごくかわいいと思いました。その後はふとんに入って、いろいろ話しました。話に夢中で時間を忘れました。

この夜は、すごく特別で楽しい、修学旅行での夜でした。





わかる授業

＝ 小学校外国語活動 ＝

# 「ふれあい」を

※チャンツ＝体を動かしながら英語の音を楽しむ学習  
※アクティビティ＝さまざまな活動



② アイコンタクト！  
③ ビッグ&クリアボイス！  
を徹底させています。また言葉によらないコミュニケーションとしてジェスチャーなども教師が率先して行います。児童がより外国語に慣れ親しむことができるような環境づくりを行っています。

### 外国語の表現に出会う

児童の持つ外国語への興味や柔軟な発想力・適応力を生かして、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませていきます。すでに知っている表現を、児童が自分の生活の中で主体的に話したり聞いたりする体験を積む活動に取り組みせていきます。

外国語特有のリズムやイントネーションに慣れ親しみ、日本語と比較しながら、言語が持つ多様性や豊かさに気付かせます。チャンツやアクテ

## 全職員で全生徒に関わる

水谷中学校教諭 門田 みち子

### 特別支援教育

水谷中学校には、特別支援学級がありません。しかし、他の学校と同じように色々なことで困っている生徒はいます。すべての生徒が、自分の力を最大限に伸ばせるように、そして楽しく学校生活を過ごせるように教員が支援することが水谷中の特別支援教育だと考えています。

や配慮が必要な生徒を全職員で把握します。体のこと、学力のこと、友人関係のこと、心の問題などなど。そして個別の指導計画を担任が中心となつて、みんなで作ります。水谷中は、学校規模が小さいので、全教員がすべての生徒と関わりがあり、様子がわかります。何かあれば、すぐ共通理解ができ、対応がとれる

ところが良いです。特別支援教育部が、教育相談部や生徒指導部とも連絡を取り合い対応を考えていきます。

授業では、全教員が指示の出し方や説明方法を、すべての生徒がわかるように工夫したり、指示も目で見て確認できるようにしたりしています。また、少人数授業やTTの授業などを活用し、個別の指導も行っています。

特別支援教育は、すべての生徒を対象とし全職員で行うものであることを基本に、今後でもできる限りの取り組みを進めていきたいと思えます。

イビティの中に意図的に外国語特有の表現を組み込み、学習させ、その経験の積み重ねで、分かるようになった喜びやできるようになった楽しさを感じさせています。

児童の学習後の振り返りカードの中には、「ゲームの中で楽しく話すことができた」、「新しい文を覚えられてうれしかった」という感想があり、楽しさ↓気付き↓習得というサイクルが学びの中にあるということを改めて感じました。児童の心を動かす授業展開を常に意識し継続して取り組んでいきたいと思えます。



中学校英語への円滑な接続のために

小学校外国語活動と中学校英語とは目標が異なります。そのことを理解したうえで具体的にどのような連携を行っていくかが課題です。

その課題を解決していくために、小学校段階においては児童が持つ興味・関心を大切

にし、ふれあうこと、コミュニケーションをとることの楽しさを感じさせることが求められています。

また、児童の心を動かす授業を展開していくための教師の指導力の向上と、校内の指導体制を充実させていくこと、チームとして授業を展開していくことが大切です。

本校の「ワールドカルチャールーム」が児童の興味で溢れ、生き生きと瞳が輝くよう、これからも児童と一緒に魅力ある授業づくりに尽力していきたいと思えます。

コミュニケーション能力の素地を養う

関沢小学校校長 内田 弘  
小学校では中学校のように「聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと」などの四技能の習得を目標としてはいません。楽しく英語のコミュニケーション活動を行い、体験を通して積極的に英語を使う態度を育成し、無意識のうち基本的な英語の音声や表現に慣れ親しませることを目標としています。

児童の興味・関心を引き出し、外国語を楽しく学べる環境作りを行うことがコミュニケーション能力の素地を養うことにつながります。

# 兄弟の絆

鶴瀬小学校保護者 滝浦 三和子

我が家には、三人の子どもがいます。小学五年生、四年生、幼稚園児の息子達は、毎日元気と笑顔で過ごしています。

我が家の子育てでは、子ども達が兄弟仲良ししている事を教えています。そのおかげで、長男には日頃から感謝の気持ちでいっばいです。普段から本常に弟二人の面倒を良く見てください。

あれは、長男が三年生の頃、三男はまだ三歳の時でした。長男が学校で友達と遊ぶ約束をしてきた時、三男も一緒に行くと泣き出しました。しかし、長男は三男を連れて行ってくれました。正直、心配と不安がありました。小学生の中に幼い子どもがいるのは、大丈夫かなと思いつつ二人の帰りを待ちました。帰って来た三男の顔を見た時、凄く楽しかった表情をしていました。あれから、今もずっと長男は学校へ遊びに行く時も友達の家へ遊びに行く時も、三男と一緒に連れて行ってってくれます。普段の生活の中でも



三男は私よりも兄二人と一緒にいる事が多いです。お風呂も寝るのも食事も、あつちに行こうがこつちに行こうが本常に三人一緒にいるのかなと思うぐらいです。誰に何かを言われたから仕方なくやるという感じではなく、長男自ら進んで次男や三男の面倒を見てくれる事を親として誇りに思っています。子ども達には、年を重ねていっても仲の良い兄弟でいて欲しいと願うと共に、兄弟の絆も深めて欲しいと思います。



## コミュニケーション能力を育む

勝瀬小学校

本校では、子どもたちの生きる力を育てるために、確かな学力と、それを社会の中で活用することのできるコミュニケーション能力を育てることが大切だと考えています。コミュニケーション能力の中でも、事実を正しく理解し、自分で考え、的確に伝える力と話し合いを通して、集団で考えを深め、よりよい方向を決定できる力が大切です。本校では、一人一人の子ど

もたちに、そのようなコミュニケーション能力を身に付けさせるために、富士見市教育委員会の研究委嘱を受け、学級会での話し合いを中心に研究してきました。一月二十七日には、その研究の成果を発表する授業研究会を開催しました。研究会には、富士見市内外の小中学校や幼稚園、保育所等から百名の参加者があり、本校の生きる力を育てるための研究を発表しました。



学校では、この研究をさらに発展させ、子どもたちのコミュニケーション能力を高めた確かな学力を育て、すべての子どもたちに生きる力を育んでいきたいと思います。

# はぐくむ

～学校・家庭・地域から～

## 確固たる自信

西中学校PTA会長 本田 律

「生きる力」には様々な要素があると思いますが、私の中でも「自信」がすべてのベースになると考えます。自信があるからこそ、難しい意志決定もできるし、どんな新たなことに挑戦する意欲も沸いていく。根拠のない表面的なものではなく、自分の短所も認識したうえで、でもこれだけは誰にも負けないという自信。そうした自信をつける

には、ただ褒めて育てるだけでは難しく、力のかぎり物事に取り組み、自分で失敗や挫折を乗り越えたという経験が不可欠だと思います。

中学二年生の娘は毎日熱心に部活動に取り組んでいます。なかなか思うような結果が出せず、辛い思いをしてやる気をなくした時期がありました。一生懸命やっていたにも良い結果が出るとは限りませんが、そこで諦めてしまっ

はいつまでたっても何をやっ



でも結果は出ないままです。ここが踏ん張りどころだと思いい、「結局は自分の力不足が原因だ。悔しかったら絶対的な力をつける！」と辛い状況に向き合わせました。何とか自分の力でその状況を乗り越えた娘は、そのときを境に、少しだけたくましくなりました。

とまあ、立派なことを書きましたが、わが子は自信も生きる力も、まだまだ全然足りない状態です。社会に出るまでの間に徐々に生きる力が備わるように、親としてしっか

り関わっていききたいと思いま



## 二つの収穫く作物と体験く



### 本郷中学校

本郷中学校で毎年行われているPTAバザーに特別支援学級A B組も販売学習の一環として参加しています。今年

は、学校ファームで収穫したジャガイモやサツマイモを販売したり、それらの作物を使ってポテトサラダとスウィートポテトを作りました。昨年経験した二・三年生が一年生に教え、土をきれいに落とし袋づめをしました。これら

の収益で、新たにファーム用の種や苗を購入したり、調理実習の材料に充てることになりました。

十二月には秋に蒔いた大根がたくさん収穫できました。とりたての大根を保護者会で販売したり、ゆず巻き大根や切り干し大根を作りました。また、今年初めての試みとして、たくあん作りに挑戦しました。味の方は、美味しいと

## 教育課題特集

# 生きる力を

### 日本語ボランティアとの対話

富士見日本語サークル 代表 山本 兼三

A：日本語ボランティアを、やっているとか？

B：私は小学校で、中国から来た子どもに日本語のお手伝いをしています。

A：学校に外国の子どもがいるんですか？

B：いま、富士見市内では中学校に三十八名、小学校に十三名が在籍しています。

A：義務教育？

B：日本はユネスコの条約を批准しているんで、希望があれば受け入れるんです。

A：子どもはみんな日本語がわかるのですか？

B：良くわかる子ども中にはいますが、ほとんど理解できないケースもあります。

A：私が外国の小学校に入れたら、きつとダメですね。

B：そんなときに、力になれるボランティアを目指しているわけですか？

A：皆さんは、中国語もスペイン語も大丈夫？

B：とんでもない。でも、日本語だけを使って教え込む方式が最近はかなり実績を挙げているので、それによ

るんです。そのための日本語テキストも種々あります。

A：実際には、どうするんですか？

B：学校と相談して週に何時間か授業を空けてもらい、別室で集中して勉強するのが多いのです。

A：私でもそんなボランティアができるかしら？

B：要は、熱意と良い意味の好奇心でしょう。私たちのサークルの勉強会もあります。

好評でした。生徒達は、普段では口にしない物でも自分達で作ると好き嫌いせず食べることが出来ます。



いろいろな経験をすることにより、できることを増やしていければと考えています。





ふじみ野小

みんなにやさしい町づくり

5年生は、車椅子・ブラインドウォーク・老人体験を通して障害のある方や高齢者の方の視点から町を見直し、新しい町づくりのプランや工夫を考える学習をしています。

「東日本大震災」から一年が過ぎました。今なお多大な影響が残っています。家族や家を失ったり、他の地域への避難生活を強いられたりと、過酷な状況におかれた多くの子どもたち。その中でも明るく、たくましく日々を過ごしている姿を見ると、つらさをはねのける強い精神力と思いやりをもった大人に、きっと成長していくだろうと感じさせられます。ここ富士見市では幸いにも大きな被害はありませんでした。子どもたちには、同時代を生きていく被災地の子どもたちに負けない「力」「心」を身につけていってほしいと思います。「がんばれー富士見の子」



富士見特別支援学校

おいしい給食ありがとうございます！

本校は自校給食で、4人の調理員さんが、小学部から高等部まで全校分の食事を作ってくださっています。年に1回感謝集会を開き感謝の言葉とプレゼントを贈っています。



水谷小

コマがまわったよ！！（昔遊び体験）

1年生が生活科の時間で、昔の遊びを体験しました。社会福祉協議会等の方を指導者に招いて、コマ回し、お手玉などの昔の遊びを教えていただきました。



本郷中

1年生 福祉体験

1年生で福祉体験として、車イス体験とアイマスク体験を行いました。自然に声かけや手をさしのべることができるとよいですね。

市教育相談室より

『教育相談Q&A』

Q 小三の女子ですが、まだ、近所の年下の子ともたちと一緒に遊んでいますが、お母さん方からは喜ばれますが、私としては心配です。

このような幼稚な遊びをするのは知的な発達に遅れがあるからなのでしょう。

A お子さんの知的な発達が遅れているのではないかとのご心配のようですが、遊びだけから知的な発達の判定は出来ません。また、年下の子と遊ぶから、知的な発達に遅れがあるともいえません。

例えば、気の優しい子で、年下の子の面倒をみたり、一緒に遊んであげたりすることの好きな子もいます。また、引っ込み思案な子は、同年令の子どもに圧迫感を感じて、年下の子と遊ぶ子もいます。ですから、いろいろな角度から考えてみる必要があります。





富士見台中

多くの成果を得たスキー宿泊学習（1年）

2月1日～3日の2泊3日で、1年生が菅平高原でスキー宿泊学習を行いました。初めてのスキーへの挑戦、2泊の集団生活から、あきらめず努力することや5分前行動、きまりを守ることの大切さを学びとりました。



南畑小

栄養を考えた一食分の献立を

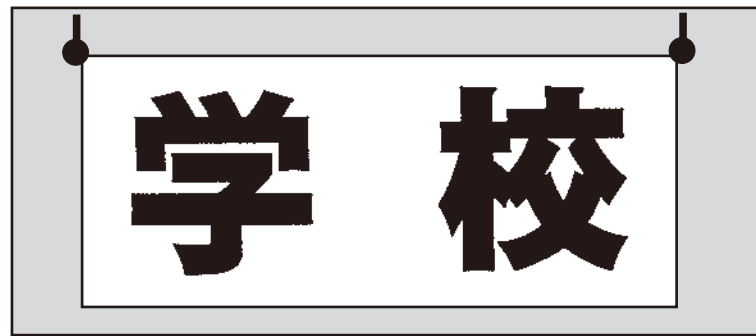
南畑小の5・6年生の家庭科の学習では、富士見特別支援学校栄養教諭の島袋先生をゲストティーチャーとしてお招きし、調理実習を行っています。栄養満点の一食ができました。



鶴瀬小

体育朝会～長縄跳び～

毎月1回の体育朝会では、運動好きな子ども達を育むために年間を通して様々な運動に取り組んでいます。1月は、各クラスごとに「8の字跳び」に挑戦しました。



つるせ台小

また一緒に遊ぼうね！

11月30日、楽しみにしていた富士見高校生との交流会が行われました。休み時間は外で一緒に遊んだり、給食も一緒に食べたりと、あっという間の楽しい一日でした。



水谷中

つつる運動 ～校内清掃ボランティア～

水谷中生徒会本部の企画による「つつる運動」。年に2～3回、毎回50人以上の生徒が参加しています。大規模な校内清掃を展開し、学校も心もきれいになっています。

娘さんの場合は、ご近所のお母さんが喜んでいられるということですから、娘さんが、よいお姉さんとして上手に遊んであげているのだろうと思います。ですから、むしろ、そのように周囲の人から評価されていることを本人に伝え、ほめてあげるとよいと思います。

また、発達段階で考えると、同級生と関係が密接になる時期で、それによって社会性が発達する段階でもあるので、同級生の仲良しの友だちができるのは大変望ましいといわれています。

そこで、娘さんの学校での友だち関係の様子を先生に聞いてみてください。もしも、孤独でいたり、引っこ込み思案だったりの度合いが強いうでしたら、同級生との交流のチャンスを増やすよう工夫をしてみてください。



# 教育委員会だより

## 卒業おめでとうございます

今春、1,922名のみなさんが、市内の小・中・特別支援学校を卒業します。保護者のみなさまには、お子様の成長を振り返り、感慨もひとしおのことでしょう。

卒業生のみなさんは、通い慣れた通学路や学校、一緒に過ごした仲間たちとの別れにさびしさを感じながらも、これからの生活にわくわく胸をはずませているのではないのでしょうか。新しい場所で、たくさんの人との出会いを通して、広い視野を持った心豊かな人に成長することを願っています。

在校生のみなさん、4月から1学年ずつ進級します。この1年間を振り返り、新しい目標に向かって、たくましく元気に学校生活を送りましょう。

### ◎平成24年度富士見市立小・中・特別支援学校入学式 期日：4月9日（月） ※1月末現在

学校名	開式時刻	入学予定者数
鶴瀬小学校	10：30	85名
水谷小学校	10：30	74名
南畑小学校	11：00	34名
関沢小学校	11：00	69名
勝瀬小学校	10：40	94名
水谷東小学校	11：00	67名
諏訪小学校	10：50	128名
みずほ台小学校	11：00	97名
針ヶ谷小学校	10：45	52名
ふじみ野小学校	10：45	140名
つるせ台小学校	10：40	80名
富士見特別支援学校	10：20	13名
富士見台中学校	9：30	191名
本郷中学校	9：45	147名
東中学校	9：50	97名
西中学校	9：15	152名
勝瀬中学校	13：30	299名
水谷中学校	9：15	93名

#### 《お詫び》

12月号（311号）の「人権尊重・私の主張 人権問題について」中、「いじめから分かった事。」を執筆いただいた、本郷中学校 3年 月岡 果穂 さんの作文に原文との相違がありましたので、ここにお詫びします。なお、原文は、市ホームページに掲載してあります。



### 縁を生かす

水谷中学校教諭

田沢 友香莉



ページをめくる音だけが響く朝読書の空間。誰からともなく片付けを手伝う給食の時間。このような日常を大切に

級（けい）の成長がある。体育祭大縄。伸びない回数。を前に、責めることよりも励まし合うことの大切さを学んだ。本番九十九回の新記録は、努力は報われることを教えて

くれた。「全員本気」にこだわった合唱祭。最初から本気でなかったことを後悔した「クラスがこれからどう変わるかが大切だ」の声。感動で終わらせず、得られた学びを財産とする。欠席しがちだった仲間も当日見学を果たした。「来年はみんなと一緒に歌いたい」その言葉に学級は沸いた。合唱の上手下手よりも、尊厳

価値がある。学級の解散とする。

### 編集日記

各学校には、学校応援団組織が充実してきている。環境整備や学習支援、安全安心等の取り組みが盛んである。学校・家庭・地域が一体となつて子どもを育てていこうとする機運が益々拡がりつつある。学校によって多少異なるが、本校でもPTA、自治会、町会、敬老会等の地域の中にある様々な組織が融合連携し学校を支えようとする地域力は強く、有難い。応援する方から「私たちも元気をもらえらる」等の声も聞かれる。しかし、子どもの育つ環境が多くの人々に見守られた温かな中であれば、子どもにとって育つた所はふるさとになり、ふるさとを愛する心が育つのである。「ほんの一瞬でも、お互いの立場から世界を見ることができれば奇跡がおこるだろう」（米国の随筆家ソロー語録より）支えあい、絆のあふれる世の中でありたい。間もなく一年になる被災地は、冬の寒さに耐えながら、復興に頑張っている。（忽滑谷）